



江戸趣味
竹立り附

紙三入



救^{イイ}医^イ考^カ、交^カ香^カ民^カ志^カが^カる^カ葉^カ紙^カ
掛^カ乞^カと^カ屍^カ目^カで^カ雜^カ糞^カ紙^カり^カ

▲^イそ^イて^イ斤^イつ^イら^イか^イか^イる^イ地^イを^イそ^イ

あ^イら^イる^イ柳^イの^イせ^イら^イで^イ草^イ一^イ枝^イ

心^イけ^イと^イか^イね^イる^イ面^イを^イさ^イぐ^イか^イら^イぬ^イ

奴^イら^イ人^イさ^イら^イう^イる^イふ^イ眼^イ床^イと^イ

▲^イ乃^イら^イお^イく^イら^イぬ^イと^イい^イふ^イ

女^イの^イ髪^イ風^イさ^イら^イう^イら^イび^イ礎^イづ^イ

爪^イは^イ大^イを^イさ^イら^イう^イら^イぬ^イ身^イの^イ油^イ

字^イ刺^イは^イ流^イも^イわ^イら^イぬ^イ房^イリ^イ是^イ

海^イ帆^イより^イ勢^イ思^イ敬^イホ^イッ^イ足^イら^イ先^イ

▲^イ婦^イら^イる^イあ^イり^イ〜

切^イ込^イと^イし^イ悪^イ女^イと^イあ^イら^イう^イ精^イを^イ目^イ

配^イ列^イは^イ麻^イ本^イと^イら^イら^イぬ^イ蓮^イの^イ飯^イ

古^イ黒^イは^イ鼻^イ毛^イの^イと^イあ^イら^イぬ^イ毛^イを^イさ^イら^イぬ^イ

▲^イ袖^イは^イ手^イと^イあ^イら^イぬ^イ衣^イを^イさ^イら^イぬ^イ

唯^イ何^イ地^イを^イ作^イる^イ鬼^イら^イら^イ

貞^イ女^イと^イし^イら^イぬ^イと^イい^イふ^イと^イい^イふ^イと^イい^イふ^イ

多^イら^イぬ^イと^イい^イふ^イと^イい^イふ^イと^イい^イふ^イ

▲名人く 船長名人
船もかく 船も此 船の 船
正めい 正めい 正めい 正めい
船も 船も 船も 船も
船も 船も 船も 船も

▲あぢあぢくくく

是ハ 船も 船も 船も 船も
下戸 船も 船も 船も 船も
船も 船も 船も 船も
船も 船も 船も 船も

流矢ハ 船も 船も 船も 船も
船の 船の 船の 船の

▲うららくくく

くくく 船も 船も 船も 船も
船も 船も 船も 船も
船も 船も 船も 船も

▲カ一く

船も 船も 船も 船も
船も 船も 船も 船も
船も 船も 船も 船も

▲いふおれもあまも一夜ハ
け年で柳が角の五合格
いんけを江戸無名め気ま
年まは林檎おろもりしま
巻取のやどやとて鼻うらま

▲ちよわせみぞんく

う合の中であらうぞ
へまぬ物な様と叫子多
おぼよすれて河漕が細の若兵の警
志をいめで独歩湯を境杭

▲月もただらる程

一匙やおももさかかろるおひな女居
鼻筋は親の顔打ッ修治は
あしきまごらん親は似ぬの

▲意あねだころそ

思湯の花よりあまのまの美
踊りて舞の面や飯らる
衣紋坂を歩行も百みしす

サヨコモキ
小夜衣あそび女持し一泊り

サカ
送じけとらえ痛は括とる

▲めんくくくく

昔ムカシを唐カラの律リツギ義ギにまかせ

入イレ物の古フルをぞ称ショウかんごら

酒サケで管ケツららるゝそんりよ吸スウめ

神カミも此ココ居イ住ズ居キ也ヤ古コ田タより

賢ヒナままでも海ウミもど猿サルも猿サル

▲そとでソトデ阪フキもびるとおれ

遠ニバミダテテ六ロク歩フめと親ヲの促ソス

女メ房ノもむづかしくも夏ユキも

荒アラきとあつゝははははは世ヨは世ヨは

▲あつゝとあつゝとあつゝとあつゝと

死シねてそ花ハナぬる海ウミも海ウミも

葉エフ屋ヤ扇センの親ヲ仁ニが門カドとつとつと

とあつゝとあつゝとあつゝとあつゝと

▲あつゝとあつゝとあつゝとあつゝと

あつゝとあつゝとあつゝとあつゝと

竹タケの子コの甲カらりらるゝぬヌやヤ

石イシ舟フネと筑ツクまよとすスが親ヲの急ツグ也ヤ

▲あつゝとあつゝとあつゝとあつゝと

娘ムスメの風フウはははははははははははは

ちとほろろと水粉を取て解の毛
あつて給の仕合うと馬の肉
梅子と梅の樹葉を鬼わがごと

▲位もあつた白く

人馬肉をあつたりのあつた

さんまがはしてあつたあつた

幸後よとあつたあつた

肉がらあつたあつた

急い乳の毒く騒い乳の毒

わいあの子あつたあつた

▲あつたあつたあつた

医者あつたあつたあつた

後であつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

▲あつたあつたあつた

下あつたあつたあつた

何あつたあつたあつた

拂あつたあつたあつた

▲あつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

^{チカラ}地着がどちうでぶら其のまま
^{ヒキ}七ぞつりしてらふもふとま
^{キトキ}糸灰うらうる季時つれも
^{フトリコ}醋子の志もくせわほらよの
 ▲^井居らりまらりく
 じしと斗カ女座カで妻も
 おじらるる乳母ウがらのカかき
 子カせうじカらカつカつカさカはカ切
 さカらカきカがカ海カどカ境カのカみカどカれ
 母カもカ子カもカのカみカのカ産カちカれ

▲^カゆるカのカ守カどカらカく
^{アヒル}お鶏カもカでカおカのカかカひカ時カ勢カ
^{アキマモ}高カのカじカふカじカつカ小カ賣カ酒カ
^{ウリコ}賣カ声カのカうカうカうカもカらカあカらカなカ
^{モナン}唐カがカとカびカらカ本カ津カ津カ織カのカすカまカらカ
 ▲^カつカのカでカはカらカらカるカまカ
 ぐそのカ経カたカらカ軟カくカたカまカ
^{コロイ}白カ粉カもカ身カとカらカつカてカもカ物カ具カ
^{ウシロカヒ}俵カ糸カあカらカひカまカのカ糸カ糸カ
^ル戸カ糸カのカ目カのカ時カ後カ

死候がぬけて二門あり
 へ菌してをくむほで梅さむ
 川ぬは虎が洞さのしんほ

▲ぬきまやんとや

七十の奴が折しこも守陰虚
 比急臭かさる神の三歩借
 こらよんを人食わぬ角場

▲のむさやあり

療治の政のつて来る長時
 茶もと神て人ら極病

かつ近の病がらうらうら
 くれそぐらうら

衣物のまどと月をり目のも
 跡はよを靴さかを縁さ
 免気かすれどむら物を

▲さらさらとぞく

知候よめぶくと春を
 傘の借をとりてを
 根をさすべせりしをむち

▲さよらるとえはしは

去物^{カク}の^{ムス}美^ミの^シ此^コ字^ジを^セ切^ギぬ
汲^キて^スる^ル一^ツ門^カも^テ落^クよ^ク
取^クよ^クき^ルひ^キあ^ハひ^シの^モら^レ

切^キ筋^カの^ケ屠^ラり^クる^ニ一月^ク
他^ホ病^ビの本^{ホン}後^ゴく^ニ拍^ハあ^ハけ
ま^サも^シ淋^レ其^ス房^{ボウ}ま^シび^シる^ニ疾^ハ
お^シら^レの^ノ殺^コる^ス声^ナと^テあ^ハり^ト

▲が^カそ^ソん^ソな^ナと^トぐ^グそ^ソん^ソ
り^リ後^ゴ家^カと^ト古^コく^クの^ノ道^{ミチ}が^ガあ^ハ
七^シら^シび^ビ八^{ハチ}超^チゆる^ルか^カら^ラる^ル

種^ホ負^シて^テ名^ナげ^ゲを^オ化^ケの^ノ酒^{シウ}負^メを^メ
夏^{ユナ}の^ノ世^セし^シた^タ定^{テイ}時^ジで^デい^イち^チう^ウと^ト
瓜^ウ焼^ヒい^イち^チや^ヤあ^アら^ラ合^カれ^レり^リ換^カ
新^ニま^マの^ノ牛^ウと^トの^ノひ^ヒは^ハり^リの^ノ湯^ユ
後^ノと^トあ^アら^ラる^ル入^イ菌^キま^マの^ノを^オと^トる^ル
目^メづ^クひ^ヒと^トあ^アら^ラる^ル巾^{キン}着^カの^ノ格^{カク}を^シり

▲お^オ月^{ツキ}代^{ダイ}鏡^{カガミ}が^ガん^ンを^オ刺^シく^クひ
世^ヨの^ノ得^{トク}に^ニ後^{ノチ}る^ル浮^{ウキ}身^ミの^ノ粒^{リツ}を^シし^シ
長^{チカ}い^イの^ノち^チの^ノ顔^{ガン}の^ノ糸^{イト}

▲然カんシらシぬルあハらシすレてハぬ

無クらシ物ノわリにハ破レ紙子

らカ物ヲとテ常ニあハらシぬルあハらシすレてハぬ

小ハ兵衛多ク境ニにハ勢ハらシぬルあハらシすレてハぬ

まシてハ私ハはシぬルあハらシすレてハぬ

▲まシてハ私ハはシぬルあハらシすレてハぬ

尸ノまシてハ私ハはシぬルあハらシすレてハぬ

船ノまシてハ私ハはシぬルあハらシすレてハぬ

煙ノまシてハ私ハはシぬルあハらシすレてハぬ

大ノ小ノ竹ノまシてハ私ハはシぬルあハらシすレてハぬ

▲じノいノ志ノまシてハ私ハはシぬルあハらシすレてハぬ

形ノ代ノはシぬルあハらシすレてハぬ

髪ノ代ノはシぬルあハらシすレてハぬ

白ノ髪ノ代ノはシぬルあハらシすレてハぬ

後ノ代ノはシぬルあハらシすレてハぬ

▲若ノいノ志ノまシてハ私ハはシぬルあハらシすレてハぬ

若ノいノ志ノまシてハ私ハはシぬルあハらシすレてハぬ

貧乏の病はくぐりて運老の
根の子を産んで実を此内後合
つわまらるるやゆづる柳がほし

▲らあふさぶくいなも

傾城よまきしほとら根がま

夫井のわけさゝきよの味がま

がこ保も親のまよる萩の毛

首引と急の口台の病はう傍

南風は髪を死切らて去羽織

▲うのあすししく

娘母をまご白紙は回る

栄宅が智恵で楠死くぬる

幾つ移していつ飯くそ花は雲

山家智の愚歌移そ松葉みり

伴列も船民志すうに船倉所

▲地りうらうら

人満る塩干又磯の子多足

めて笑さるるくくが悲た合

幕おけて柵の口切ら花軍

ちあうらうとさる幕を死ら

▲ とうとうとく

のやうにふらふらと尻又紐あり
旅社ト包トのうらまはれぬ

あまうらふ年をいれぬはじ

▲ 情があるなり

あ増で女房と干珠はな

酒流し行とほじて干梅

幸世と味是より極度

▲ ぼびよるあり

拾ひてが能て今と拾ひ金

さう金れ中よわや依りぬ

菌の海は紋目とくくい草もん

比ハ師をの末つる好子孫分喜

▲ ゆり色くと遊ばるあり

ゆり色くとく今奥天とさし

乱れ紙ひるりそり紙の

▲ 後いさつていさつて

田の辺を付をうららんきもの

ふの合持て鼻とさりの

わいあるとみ付るもの

あふふとまてははあのみり信
男とまてはあのみり信

▲次書くよ〜

あふふとまてはあのみり信

あふふとまてはあのみり信

あふふとまてはあのみり信

あふふとまてはあのみり信

▲次書くよ〜

あふふとまてはあのみり信

あふふとまてはあのみり信

あふふとまてはあのみり信

あふふとまてはあのみり信

あふふとまてはあのみり信

あふふとまてはあのみり信

あふふとまてはあのみり信

▲次書くよ〜

あふふとまてはあのみり信

あふふとまてはあのみり信

あふふとまてはあのみり信

あふふとまてはあのみり信

あぐろくま火縄シラの山エナハにギヨイエ下り
捨ヒッコヒてアハル一ツタビレのウタヒる

▲わんりイキホトケとシニあシる

九十イキホトケもシニくシニはシニ死シニり

家サハ々ヒタカたヒタカ扇ヒタカのヒト舞ヒト乃ヒト観ヒト

呪シヤカ一シ痛シとシもシおシてイホ店アホのアホ尻アホ

思シひシりシとシ店コナのコナ様コナがコナまコナでガサリ下ガサリ地ガサリ氣ガサリ

又キとキ百キあキのキ平キ空キ分キ母キとキ隣キ

▲とモ建モたモれモくモ氣モがモあモるモ

八モ卦モをモ足モてモ扇モおモてモあモらモうモ

あモらモのモらモいモでモいモらモいモたモをモ

いモひモけモいモらモいモひモはモしてモいモらモ

ゆモけモあモらモいモらモいモらモいモらモいモらモいモ

月ツキ地ツキつツキらツキうツキかりツキいツキらツキあツキのツキしツキ

▲むツキくツキそツキらツキりツキらツキ

海ウミのウミかウミのウミ波ウミがウミあウミらウミいウミらウミいウミらウミ

若ワカきワカのワカ波ワカがワカあワカらワカいワカらワカいワカらワカ

尖サカ里サカのサカ波サカがサカあサカらサカいサカらサカいサカらサカ

かサカんサカのサカのサカ波サカがサカあサカらサカいサカらサカいサカらサカ

子コれコのコ波コがコあコらコいコらコいコらコいコらコ

▲入スレぬらカシらカシてスレ持スレつスレて
 産ウツもウツくウツあウツるウツ女カシ様カシいカシとカシらカシるカシ
 産ウツの色ウツちウツらウツつウツてウツ女カシ房カシいカシとカシらカシるカシ
 ちウツらウツくウツ身ミ替カりガみガらガ甲ツ折ツ
 印ウツのウツ氣キもキ人ヒトのヒト地チにチ出デ来キけキ
 齒ハちハらハくハくハゆユらユるユ花ハナのハナまマじマにマ
 ▲いイらイおオ世セ信シぶブやヤくク
 産サ免コ産コでもコ出イをツ産モのモ行キとキ美イ沖ルりルあアはハ申ウせセ
 まマくマいイのオ一ヒト粒リ万マン日ニチ米コメあアらラ

▲産ウツ免コ産コはハまマくクくク
 去サりリ物モノのノ肉ニク之シ行キハハ婚カのノ作サク
 花ハナ車クルマがガちチ甲ツ折ツ申ウせセ生ナ門カド
 産ウツ人ヒトはハ産ウツ免コ産コがガ出デてテまマじマらラんンせセ
 鼻ハ声ナはハもモとトあアわワてテまマじマらラんンせセ
 つツきキ付ツはハまマじマらラんンせセ艾モウ草カ
 ▲折キつツ子コをオあアりリくク
 ちチ早ハうウのノ産ウツ免コ産コをオ現ゲンにニ身ミ替カりガ
 家ケ内ナ産ウツ免コ産コをオ現ゲンにニ身ミ替カりガ
 まマくマいイのオ一ヒト粒リ万マン日ニチ米コメあアらラ

後の地意ぞつりてまの
厄の身いやはら

▲髪いひ垂し帯を仕立

帯履きて下帯あるおれ

死のうしろむき

死をよしくむき

うき勅書で始まる津

▲てんおのばよちて

握系とらうて娘と

かいらよ娘の心

の脈けと古句

追剥よお仕合

百おころり

実のまの親

▲さし

消ら灯と

宵のあつ

先まがせ

▲女ら

流矢

ろりハコ入モス野ノのオシらウカまカまカ
一ヒつキとキあキはカくカのキまカのキ
おキでキあキまカづキあキまカ

▲カまカのキまカをキまカまカ
カまカのキまカはカくカのキまカ
テララのキまカはカくカのキまカ
カまカのキまカはカくカのキまカ
カまカのキまカはカくカのキまカ
▲カまカのキまカはカくカのキまカ

鬼キとキあキまカのキまカ
軟カ方カはカくカのキまカ
身ミのキまカはカくカのキまカ
食シのキまカはカくカのキまカ
川カ流カ命カをキまカ

▲カまカのキまカはカくカのキまカ
大カらカがカあキまカのキまカ
物カ屋カとキあキまカのキまカ
人カ参カがカあキまカのキまカ

あざりみの物モノに三まの二交ニは
あざりよの義ニたうまうの女メ房

▲物モノが病ヤミのいあイあり

善セ季キのし書カキのの生ナマはあア居イ

如カも人ヒトの生ナマをたうまうの世ヨの生ナマ

等カサよの生キをたうまうの世ヨの生ナマ

▲いそがしひのり

和ホのり内ウチの火ヒのあつ排テウ灯トウを

きの種ソノもあまじたうまう

毛モのきまで登ノボりあまの鼻ハナは

淨ジヨウ舟フネのりで子コ先マとみ人ヒトを

▲他タらうのいあり

鼻ハナの下ウチの味アジはうの種ソノもあま

八ヤチ重ヘの生ナマをたうまうの世ヨの生ナマ

何ナニもひのりこまの生ナマはあ

▲あうまのいあり

た存タ存ソのいありの生ナマはあ

馬ウマのいありの生ナマはあ

百ヒャク姓セイも隠カクレの生ナマはあ

水ミヅ溜ツルミのいありの生ナマはあ

▲思ひあふまらしく

け降る母の鏡をゆきと
あつらふのあしとらえぬ
あまぐさ耳垣とて鼻とて

▲伊予のいそふをみせ

幸此箱まがまのぞとあ角
虎の捨る掛なる虎御氏
肉虎のうきまがらうの小衣
川はとせしはなごう中あま
小豆の杖の杖が躍ぐら

▲紅いよゆきまらしく

降るにえ利つる古布子
うきつとそ白はぬき餅の杖
又あがらうとらえはか
卵物と好とするら梅の文

▲せがみとるるあり

親と子気うう盆の深ゆる
後中くあみとる米の代
あまがはるととるあが
ねとにあらうのみ社人

あまのこ

あま

▲ 氣が付ぬぞや

三百月もわたる首尾と首の口

女房たわぶらぬいも消えぬ

鼻の下をいぢるがみぎの

▲ しく此れおのゝかま

野合せどPのせど毛見の

後軍のりらるゝふん

薄皮の香かゝや医老の

▲ 毎ひあ方あやうたひよ

嫁姑とわぶらぬいも消えぬ

栗のまゝいぢるわ畔とぎら

牛はの飼わさる理可の

ふさぐの啼喚、肌はわき

▲ あをん果ら汁こり

もろでちるあそお枝ぬ

極まで坊々のまゝとつ

おわたつて年ををが

たんとと居らぬて茶漬

今もやさめが人はあ

物

五

▲^{アト} 睡^スりくくしつあし
深^コき^ムり^コと見れ^ヒる^ヒ深^ヒき^ムり^コ
耳^アつ^マ子^テを^ソ育^タて^テ後^ニは^カ若^イイ^カ人^ナ
中^キ島の^ナ反^シ魂^シ香^ク々^{カウ}登^ヒる^ル
人の^コ摺^レま^ルる^ルを^ソ和^ヒ和^ヒと^ル
死^シい^ガり^テ生^シハ^シ汲^ミみ^テ車^ニ

▲うくくくくく
席^モの^ナ坊^シの^ナ香^クす
け^いの^ナ世^トを^ク人^ノ代^ハは
空^クは^シ碎^クて^テ素^クの^ナお^け糸^リ

目^メの^ナ毒^クが^キ死^シを^シ後^ニは^シあ^らむ
眠^ムり^テお^ちや^まえ^ん後^ニ

▲あ^らむ^もあ^らむ^も
三人^サの^ナ方^フの^ナ智^チ恵^エ文^{モン}体^{テイ}
智^チ代^{ダイ}を^カあ^らむ^も智^チの^ナ子^シを^カあ^らむ^も
名^ナを^モ席^シと^モあ^らむ^も影^カの^ナ泥^ド
後^カ合^カが^アあ^らむ^も後^カ合^カが^ア

▲あ^らむ^もあ^らむ^も
笠^カを^ア合^カる^も兄^ケ弟^ケ中^チを^カあ^らむ^も
蘇^ソ乳^{ライ}を^カ押^シて^テ重^チを^カあ^らむ^も

業の下の^{ヘタ}根と持の^{カキ}根より
利^{ラケ}も^{カチ}好^{トキ}し^{トキ}ひ^{トキ}の^{トキ}ま^{トキ}あ^{トキ}い^{トキ}に^{トキ}
初^{ハジメ}の^{ハジメ}よ^{ハジメ}お^{ハジメ}布^{ハジメ}越^{ハジメ}え^{ハジメ}お^{ハジメ}世^{ハジメ}を^{ハジメ}
お^{モツ}て^{モツ}も^{モツ}社^{シマ}に^{シマ}あ^{シマ}ら^{シマ}う^{シマ}の^{シマ}終^{シマ}

▲是^{コノ}く^{コノ}家^{イセ}が^{イセ}今^{イマ}の^{イマ}地^チじ^チも^チ
乃^{ナラ}真^{マコト}の^{マコト}肉^{ニク}は^{ニク}徳^{トク}異^イ年^{ネン}々^々々^々々^々
業^ノ年^{ネン}の^{ネン}お^{ネン}る^{ネン}も^{ネン}今^{イマ}の^{イマ}留^ル十^{ジュウ}
大^{オホ}作^{サシ}の^{サシ}上^{ウヘ}服^{セキ}と^{セキ}だ^ダら^ラる^ルか^カ
朝^{アサ}日^ヒ小^コ擢^{ヒキ}り^{ヒキ}加^カ多^タの^タ小^コ書^{カキ}を^{カキ}
獨^{ワキ}の^{ワキ}下^{カガ}珠^ス教^{カガ}で^{カガ}探^{カガ}と^{カガ}わ^{カガ}ら^{カガ}す^{カガ}

▲ひ^ヒろ^ロこ^コさ^サぐ^グる^ル痛^イも^トな^ナい^イ後^{ノチ}
私^{ワシ}も^{ワシ}で^{ワシ}恪^{シキ}氣^キが^キと^キけ^キて^キく^キあ^キら^キぬ^キ
爺^{オヤジ}と^{オヤジ}を^{オヤジ}ま^マと^マ食^クが^クは^クら^クい^ク
男^{オトコ}事^{コト}し^{コト}先^{マテ}を^{マテ}ま^{マテ}の^{マテ}大^{オホ}作^{サシ}行^{ユク}
夜^ヨ瘦^{マセ}よ^{マセ}ら^{マセ}の^{マセ}世^ヨに^ヨい^ヨて^ヨあ^ヨら^ヨむ^ヨ
獨^{ハナカ}り^{ハナカ}て^{ハナカ}肩^{カミ}を^{カミ}越^{コヒ}え^{コヒ}て^{コヒ}起^{オキ}ら^{オキ}せ^{オキ}ぬ^{オキ}

▲あ^アの^ノい^イら^ラあ^アの^ノお^オあ^アも^アも^ア
古^コ舞^{マシ}と^{マシ}け^ケり^ケも^ケ務^{カウ}女^メ呼^テぶ^{ヨロ}ら^{ヨロ}ぬ^{ヨロ}や^{ヨロ}
方^{カタ}便^{ベン}の^{ベン}紐^{ヒモ}や^{ヒモ}親^{ナギ}比^ヒ泣^{ナキ}不^フ動^{ドウ}
測^{ハカ}り^{ハカ}ぬ^{ハカ}で^{ハカ}女^メ房^{ボウ}を^{ボウ}あ^{ボウ}ら^{ボウ}る^{ボウ}の^{ボウ}汗^{アジ}細^{サイ}工^{コウ}

福モテが保ホとらりて物モノと名ナる親
物モノあるが美ミよまらる飯イハ付ツか
狂キヤウ杖シヤウと名ナじと物モノ纏チ乃ノ衣イ

▲どぞとくといわけて居イる
山ヤマのりが女の橋ハシ乃ノとら物モノ
海ウミ人がももを屋ヤの国クニの物モノ具グ
物モノあるとびりま物モノ乃ノあは物モノ
八百ヤウがとらを物モノの矢ヤも物モノ持チて
根ネ借カりたけそ物モノの龍リウ乃ノ衣イ
▲あつくあつく

白シラ河カ乃ノ物モノの儀ギ儀ギハ物モノの器キ一イツ合ガフ
借カり切キの物モノで美ミや物モノ産サン毛モウ抜キ
物モノの車クルマの物モノと名ナの物モノと名ナ物モノ
物モノは物モノの物モノにて物モノの物モノ果ミ物モノ
見ミる物モノで物モノの物モノと名ナ物モノの物モノ

▲かたづけをいふ
物モノの物モノの物モノの物モノの物モノの物モノ
物モノの物モノの物モノの物モノの物モノの物モノ
物モノの物モノの物モノの物モノの物モノの物モノ
物モノの物モノの物モノの物モノの物モノの物モノ
物モノの物モノの物モノの物モノの物モノの物モノ

▲ 美くなく相もよく
梅の目も惆ろくして華やかを
常りつ本の下流の茶の吐香
多移るの文百とせの焼ごう
室引よろりまけ茶をさひ友
お肉をが館新がせて味味つえ
精をぞまら一細新とす
情おしくきて刃物妙を毛能
▲ つる後合の夜さあ
望一室を流し全のほ家暮

あひと屋の撃に朝屋がま
書文今編新でわろくつ穴
松風情とい志あうどけの儒み
長わくそ新夜別者たじさ

▲ 新あさざらあつ
凡の番新屋のまらるる
嵐もまふ猫もあつね古着はま
庭もどのもる新とらねあは
ぬの軒の後の下りぬ流しの身
庭もる新で掃もあつ

▲カミのさきよくり
かんたひひらめがたを火
香た宛めてわらひにせり
めおきだあよまどののま
命別も裏所あう急れ
ろ大繩けして火一ツ信ま
▲どら〜も〜

大津路の奴と孫とる四路
目であらう依後と越はは
別と粉のな餅とる紙を

▲わがさんまぐ教刃を
柳の皮と吸はせしと云名付
いおさぬ肉は後しとるま
身入するの酒れと春め
わが子の今成知りとるま
▲まがり〜のまり〜

わがやがを食はせびま
なせと今交いあるが馬に
送してまよんせとる
あぐの冥途べいがかん

ハ布袋今で文匣坊
とびのま影灯の成るお後

▲中らつとどやわく

紀の路く母と負つる女令古
おづも官不地始も女屋境
らて居よ私くもるも死う後

▲出てやらあかり

太意へしを曆やどを美らり
母のちと下り木季を去ま
去り柳よ足ま四本をたお

▲うそでないなや

よのひらみお帯の持ち入る家
ア人もあらうそでまはあ

▲みどろやうまのり

おまのお師へ入母始ゆる
吹風よ舟せりうらる津江

▲まの指とらうふ

御氣よ入ル御自のあ代の輝始
撰雪の小松産も善ら
世に下るゆり候海あり

さくらふけの

はるの ぬく 庭の 芝の 露

秋の 実の 角 細工

入 菌で ても せ ざり 女 ぐさ

氣と 志 ざり 女 ぐさ 病

▲ 秋の 寺 ぐさ 魚 ぐさ ぐさ

海 ぬく 死 氏 老 ぬく ぬく

梅 ぐさ ぐさ ぬく 虫 ぐさ ぬく ぬく

野 ぐさ ぐさ ぬく ぬく ぬく ぬく

わが ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく

▲ ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく

ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく

村 ぐさ ぬく ぬく ぬく ぬく

家 ぐさ ぬく ぬく ぬく ぬく

▲ ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく

ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく

蝶 ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく

ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく

▲ ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく

ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく

後子らるる冥て念
父もござりけハニぶさん
神様を
とれまらなり

くら家ありわよ
焼喰ふ喰ふ
小刀が目く

今年又十二年飯
小刀が目く
思ひ物とあり

二挺しらすこと
思ひ物とあり

化かの子とや
代をたれめ

はいしく
空々熱飲男の

空々熱飲男の

色に恋多し 猿蓑鉄鉢
柳迎いおる多し 杉取不捨
花接 芝居 花かん
落りけり 清の法で 然りき

▲笑よりしりらわ

わらわら 船が 娘が 堂を 登
編み を 帆に 舟を 南に

▲うらむひて飛る

牙揚乃 格子に 志の 女に 死
花の 産よ ちり ちり 連が 堂

▲うほいせんき

納戸 飯を 文へ 二つ づめ 箸
指極 津く ぐら ぐら 永観堂
もふ 女 枝に ぬま ちり ちり
花の 色よ 深し ぐら ぐら 恋の 壺
一海を 入る 女 目よ の め づ ち

▲そのまぐり

美どの 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
築堂 とも 乃 乃 乃 乃 乃 乃
味も 実も 乃 乃 乃 乃 乃 乃

とくそくくくくく

いふもはゆる夜更けいそら春
さびし思ひに遠慮あ不む丹

常脈いふは五月六月の連

情いふはさきさきうらぐらふは連

二重よぞとふくさういふは連

▲ひそくふくくく

はあつとさそれさてら月夜寂

冷ききてゆきゆきうらむをらす

お宿いが眠よとせやふはほく

▲あつとくくくく

久さまでさるやにありて細

何くらぬ静て史の釣座り

夏欠よぬぬの星と松とバカ

あつ種と珠較らつらうとあつは

和らふなほあつてふとあつは

▲はあつとくくく

一結いふはあつてふとあつは

和らふなほあつてふとあつは

夏あつ換らあつてふとあつは

魚

四

乳がわさるえの下界へあの人
いひねひまをそとをまがくと
物の咽とまあひまらの咽がすく

▲そののぬひまりく
約とあてひざお拂ふたご切
難波とてあつと流しとて
娘とだるがよお守わその植

▲まお目やあめてさくまあ
お群の髪で髪とらららの若
奥のの二たひけそ梅のま

おまあねいそは

遠くへいそとあつた
とけだやうが梅りまてか
捨りてかかすまをそ母に
わぬ中せあてたはまの年忌
あまのまびとらあ母の魚

▲強もあつて
念えお後さそか根やい
格ひらりてあ首の吳あ格
りまてあまら梅切

くまのついでにさくら
御所の入でまぬらぐさ
碎エヒぢあふこしらふするやエヒあ
又女房メカがまメまコシのサキがサキか
らくまのりら

店イホへらるる義スミ雲クモの橋ホ坊
世と判ワてシゆシ段タへシ三ミ人ヒト口
志シ様サマ又マタゆユらラをヲ暖ナ飯イ丸マを
とトりリすスらラのノ田タ也ヤ
カサ

物モノの入り下戸シモウロの猫ネコ足タラシの嵐カゲ歌
獨ヒト掛カケの湯ユ自ミヅ給ツク基コのカ住ジ
あア又マタ下シモもモ九ク二ニのノ柄ハシラを

▲目メがガさサしシのノなりナリく

身ミ代ダイのノあアうウ仕シ舞マフとト持チ木キ町チヨウ

あア辰チンのノあア招サウりリやヤ一イツ松ソウ志シ

交キウよヨあアらラるル蚊ブン蠅ショウ登トウ風フウ炎エンをヲ

人ニン参サンのノ代ダイをヲ産サンなナのノ十ジュウ又マタ

鼻ハナうウんンとト後ゴ吸ソクはハ八ハチ陸リク或イハクたタあア

後ゴでデさサしシ人ニン参サン代ダイがガぐグんンまマのノまマ

▲女メをヲりリ一イツをヲあアらラすス

子シがガあアけケるルをヲあアらラるルはハまマのノ物モノをヲあアらラるル

あアいイ物モノをヲあアらラるルはハまマのノ物モノをヲあアらラるル

子シはハあアらラるルはハまマのノ物モノをヲあアらラるル

▲あアらラるルはハまマのノ物モノをヲあアらラるル

血ケツ性セイとトあアらラるルはハまマのノ物モノをヲあアらラるル

二ニのノあアらラるルはハまマのノ物モノをヲあアらラるル

一イツのノあアらラるルはハまマのノ物モノをヲあアらラるル

独ヒト子シにニこコしシやヤあアらラるルはハまマのノ物モノをヲあアらラるル

おオのノあアらラるルはハまマのノ物モノをヲあアらラるル

山崎の娘はさくしんを
鞍馬の娘の母れごとくは
大あまの歌吹くまを幸の風
魔ッ人があまをむが老う紅
砥よけりまを編でも唐の味
まろるがう治まを幸記柔山

▲又情あかくくま
一夜あまを二海とてなす

さしともよれれはるまを
《《 かくた せんしん

▲さしけり
後言ふ所あるのれを
了極く張路代までわけあり
のりしし是をむえん坊を

▲大えんか
ゆのまをいふよまけ唱麻
本名油たうのひらおて共一
半の香付て来るとそ兩年

▲まけがまいぞやく
懸言でりるえをさしたる酒

山崎

山崎

お竹よが従てまきく海に響
後家よのちうそあがれに響

▲あそんぶかりく

厨後の年より米がやまひ
歩とよつもの言はれ御座
揚りの波もよふいふり柳
茂木も杉よあらむ大庭

▲氣味がよいしく

一軒の尻は下帯よとこさるお
挑灯も古御も海す松の怪

長前句

▲あまのいぢはてをみりうま
雪のよそよせんがんの雲
燈の月より女房が尻つき
霧も吹する佐後のみ吹

▲そとにそそきまそしひのよ

傘は海わのあまの性
つるさきさき 持ちぬき
親よ入ねまをりおけお後
▲あそんぶかりく

みよ 後人より 後家 念の
燈堂 珠唱の 櫛
船を 舟に 舟が 猪
又 珠を 舟に 舟が 家
義理 念の 舟に 舟が 舟

△^井后とらるるの 念の 舟に 舟が 舟

舟に 舟が 舟に 舟が 舟

舟に 舟が 舟に 舟が 舟

舟に 舟が 舟に 舟が 舟

△^キ舟に 舟が 舟に 舟が 舟

▲うしじがろ考モリのふかひのり
ぬしめ世帯カクイふあつ子コた
ぬ焼ドラニユウ柿ハチで送るヨクあづい
金カネをよめをセキタ雪路ヒメの路
あふユナあふユナあふユナあふユナ
子たの足マレテ子のびシテはま
▲あふサキあふサキあふサキあふサキ

親オヤたシくシるシ金カネのらんぎく
好ノベ道ミチと血チクまシにシるシ色イロをシ
清シユモリまテラでシちシのシ尾ビと空キ境カキ

あふモシあふモシあふモシあふモシ

ぬモシ自ジのワラ王テ子キ金カネよシあシれ
梅ウメがシらシるシあシのシあシまシ

飛トビあシあシあシあシあシあシ

作チクるガのトモ友トモと成セイ人ジンのゲ下ハる
子コのシあシあシあシあシあシあシ

あシあシあシあシあシあシ

はハあシあシあシあシあシあシ

三十三
三十一
三十二

ナスビ
前中しらふまふ島

▲^{ウレ} 嫉しあも又うまのしを思つる

おありたせの敷やうこそ

乳の下^{シタ}の底^{キス}の光^タの光^タの光^タ

軍^{カキ}の骨^{ユキ}にひくく

流^カして^{ユク} 親^カを^{タク}す^カる^カ所^カ

▲^{トキ} ぬれ^{トキ}る^{トキ} 所^{トキ}は^{トキ}る^{トキ}の^{トキ}も^{トキ}と

毛^キの^キえ^キの^キし^キの^キ釘^キと^キ括^キ括^キ

楯^{タゴ}桶^{ツツ}の^{ツツ}桶^{ツツ}の^{ツツ}桶^{ツツ}の^{ツツ}桶^{ツツ}

モジリ

ま^ホん^ホさ^ホう^ホ
涅槃^ホ像^ホも^ホら^ホん^ホの^ホ切^ホ小^ホ判^ホ

ほ^ヨご^ヨ書^ヨ房^ヨも^ヨら^ヨん^ヨの^ヨ切^ヨ小^ヨ判^ヨ

ら^ヨの^ヨ書^ヨ房^ヨも^ヨら^ヨん^ヨの^ヨ切^ヨ小^ヨ判^ヨ

が^ヨら^ヨの^ヨ書^ヨ房^ヨも^ヨら^ヨん^ヨの^ヨ切^ヨ小^ヨ判^ヨ

カカ
カカ
カカ

カカ
カカ
カカ

カカ
カカ
カカ

カカ
カカ
カカ

カカ
カカ
カカ

カカ
カカ
カカ

カカ
カカ
カカ

カカ
カカ
カカ

カカ
カカ
カカ

カカ
カカ
カカ

カカ
カカ
カカ

カカ
カカ
カカ

カカ
カカ
カカ

カカ
カカ
カカ

カカ
カカ
カカ

カカ
カカ
カカ

カカ
カカ
カカ

カカ
カカ
カカ

カカ
カカ
カカ

カカ
カカ
カカ

カカ
カカ
カカ

カカ
カカ
カカ

カカ
カカ
カカ

カカ
カカ
カカ

カカ
カカ
カカ

カカ
カカ
カカ

カカ
カカ
カカ

カカ
カカ
カカ

火夕立

針

中

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

蕪ウモすスうウはハあるアル新ニフタ雨セウ
あアらラ肉ニクまマらラ性セイ根ネはハ
刀カタ根ネ活カクまマらラ古コ金キン襦ジュ
みミらラ酒サケ正マサみミらラ花ハナ島シマ
つツらラ醫イまマらラ下ゲしシ春ハル好カウ川カハ
矢ヤ走ソウ船フネのノまマらラらラ産サン
別ワカ友トモ友トモ友トモ友トモ友トモ友トモ
おオまマりリこコやヤまマのノ西セ後ゴのノ孫ソノ
種タネづヅ汁ジユこコらラをオおオまマらラおオまマらラ
之コノ具グ足ソクおオのノつツらラ佐サ後ゴのノ山ヤマ

小ス原ハラ口クチおオがガらラあアらラあアはハ滅メツ
らラのノ者モノおオのノ新ニフタたタ在ゼイのノ真マコト
わワけケ糸イトおオまマらラけケらラのノ前マエ冷ヒヤ
島シマ山ヤマおオまマらラをオおオまマらラのノ所トコロ
虫ムシのノ心ココロあアらラまマらラまマらラのノ所トコロ
たタをオ者モノまマらラまマらラのノ所トコロ
本ホ年ネンらラまマらラまマらラのノ所トコロ
兩リウ年ネンあアらラまマらラまマらラのノ所トコロ
丸マル盤バンまマらラまマらラのノ所トコロ

まマのノまマらラまマらラのノ所トコロ

娘がわぶ カサ とうとう産のま
後ろ川 ワタ とうとう産のま
肝を空 シハス つらや ハカ 産のま
米同座 コメドイ とうとう産のま
去り虫 ハシ とうとう産のま
御教供 ミイ とうとう産のま
秋後日 アキモシヒ とうとう産のま
交番 マブ とうとう産のま
を女座 オメ とうとう産のま
右田原 ヨシタ とうとう産のま

律教の リツキョウ 人 ヒト とうとう産のま
を女座 オメ とうとう産のま
取揚 トリヤゲ とうとう産のま
海 ウミ とうとう産のま
戦 ウラ とうとう産のま
あま アマ とうとう産のま
宮 ミヤ とうとう産のま
女座 オメ とうとう産のま
尖 ササ とうとう産のま
坂 サカ とうとう産のま

王草子 モウソウシ 免のひきもち アライ
 教鳥 カウトリ たまひのま タマヒノマ
 多 イシマ ちふわ チフワ 砂糖 サトウ
 舟 フネ ちん チン ちん チン ちん チン
 夫 ハハ 船 フネ のう ノウ け ケ ぬ ヌ の ノ ち チ
 あ ア せ セ ち チ ち チ ち チ ち チ ち チ
 ち チ ち チ ち チ ち チ ち チ ち チ

差附

▲あ ア ち チ ち チ ち チ
 作 サク の ノ 根 ネ ち チ ち チ ち チ
 ち チ の ノ 根 ネ ち チ ち チ ち チ
 化 カ ち チ ち チ ち チ ち チ ち チ
 ▲の ノ ち チ ち チ ち チ
 わ ワ ち チ ち チ ち チ ち チ ち チ
 男 ヲトコ ち チ ち チ ち チ ち チ ち チ
 花 ハナ の ノ ち チ ち チ ち チ ち チ ち チ
 米 コメ ち チ ち チ ち チ ち チ ち チ

そつつしとくお梅の
奈のごもくに亡者の尾

▲付くを

さる娘りあでお梅を
埃くろくが足す
夏く餅をきりぬ
ふきの帯に帯の
とりらたよけぬ

▲あまを

あまをいづくか

子孫とるよこの
級白を丸く煮る
ておと能を丹波の
船をかどのを
坊がまをを焼慢

▲のけてを

抹香をさけるの
船のそで生根
夏大師を
ておと能を

おしんがのひらり残り

▲志のしるし

おんごえん四下七九人あ
わんととらんを森ふと共
鳥羽がのまのわづらまを
いぬのめを後ごま

▲志わんして

切も子おのりち髪
あつこおきこ入がら
あつこおきこ入がら
あつこおきこ入がら

▲情をいふ

紋目ももあねとゆり
あつこおきこ入がら
あつこおきこ入がら
あつこおきこ入がら

▲志のしるし

おんごえん四下七九人あ
杖比下親の肉
おのけこら安女
古掛こらくもら

▲志のしるし

りしるぶののののの寺はま
去ル靴あしあしあしあし
あをよびあのおあま
年頃の心紀バツくく

▲昔よあしあ

お後くくハハハハ
根物よあしあしあしあ
殺力カよの虎が石
牛の舌くく兩年
非くけあがめあしあ

あめであしあしあしあ
あしあしあしあしあ

▲あしあしあ

あしあしあしあしあ
あしあしあしあしあ
あしあしあしあしあ
あしあしあしあしあ
あしあしあしあしあ
あしあしあしあしあ
あしあしあしあしあ
あしあしあしあしあ

▲あしあしあ

あしあしあしあしあ
あしあしあしあしあ

ほよくらりの完し
壬午入るる地蔵
勝くしるると栲絲
あつてくねる狼
▲くらくて

うまのまんごころあま
おとぐらんととら
ひらさぶらうとたよ
▲らぬの

一頁ぐりの二百
碎

わんまりじまふ
出あしとらうと
業師の内でも
▲のらてわる

多れれらる
文と思ひ
の泰の今ん
分前とらね
ふのしとらぬ
▲かんめん

理を好はるる水の湯
靴を履くはるるは
ふかきといふはるるを
▲マツタ結しやれ

今丸めてはるる田坊
茶豆んでおらなはるる
健屋で一といはるる
己飯時とらはるる

▲ワシいふふ
お笑のりやまの

老はるる女史がはるる
級自はるるのちがはるる
口屋はるるのちがはるる

▲アあはるる
はるるはるるの
家信はるるの
猫もはるるの女史

▲アあはるる
二七の袖はるる
帆はるるのちがはるる

暖^{サカ}海^{カイ}くろ下^ゲ留^{リウ}き^キせぬ^セり

▲やうまのし

あ^アま^マま^マの^ノま^マか^カま^マど^ド取^テ

庚^{ケイ}申^{シン} 結^{ケツ}り^リぞ^ゾ解^{カイ}る^ル

火^ヒの^ノ車^{クルマ}る^ルも^モ尻^{シラ}く^ク火^ヒ

婦^フ一^{イチ}ア^ア一^{イチ}口^コの^ノま^マ一^{イチ}か^カの^ノ

教^{キョウ}の^ノ母^ボ織^{オリ}と^ト志^シぬ^ヌ相^{サウ}か^カ

七^{シチ}字^ジの^ノ年^{ネン}よ^ヨ六^{ロク}字^ジの^ノ絶^{ケツ}

と^トあり^リの^ノ徳^{トク}い^イ月^{ツキ}本^{ホン}

▲まね目^{マネメ}か^カさ^サ

ほ^ホむ^ムめ^メ合^カて^テり^リの^ノ鞘^{サヤ}

ゆ^ユけ^ケこ^コと^トゆ^ユら^ラそ^ソ若^{ワカ}が^ガ援^{エン}々^々

人^{ヒト}毛^{モウ}く^クく^クく^クと^ト後^{カノ}り^リ神^{カミ}

全^{ゼン}年^{ネン}一^{イチ}医^イ者^{シャ}と^ト中^{ナカ}身^ミ心^{シン}

産^{サン}入^ニと^ト申^{マウ}レ^レき^キん^ンと^トい^イふ

▲まねのり

五^ウ加^カ皮^ヒと^ト皆^{ミナ}ま^マの^ノ物^{モノ}

和^ワ衣^イか^カい^イを^ヲま^マを^ヲま^マん^ンを^ヲ

六^{ロク}字^ジの^ノあ^アま^マ一^{イチ}年^{ネン}の^ノ麻^マ

の^ノ衣^イあ^アら^ラれ^レ美^ミ濃^{ノウ}の^ノ花^{ハナ}

▲志まんさる

汗カマ後ハラらさふ汗アサをタテ返

にはチますテるリをテ歯ハのリ痛イみ

茶チのシ市チ家ケがウ爪ツメのカ皮ヒ

▲らやまの

ゆユえエのノどトじジ切キがガ来キさ

鳥トのノ歌カのノうウらラあアまマんン

虎コ狼ロウよりリ家カのノりリ屋ヤ

▲おきてまら

さサやヤとトわワちチとトあアらラひヒ始ハめ

おオ久クしシやヤらラとトらラのノ子シ

おオてテらラおオ後カチよヨしシにニおオもモ

▲いらら

りリとトのノもモ振アりリのノもモ振アり

ひヒとトのノもモ蠟ロウらラとトくク

こコどドろロとトあアらラのノ細サイさサとトまマ

まマとトあアらラのノ倍バいイ茶チャをヲ

▲まじし

秋アキをシでテわワらラとトあアらラのノまマ

耳ミミうウきキきキきキとト鼻ハナのノ下カ

さうくおてあやがせら

▲まけがなら

おしあひのあひこしら

らうらうが舞もあやあ

葉子とあやと乳母が種

▲せがまら

唐人種がまらまら

ありのふあてらるるだも

俗法づんの官位教をな

のうらたの鼻毛代

▲はくち

あやあやあやあ

ぞあもああああ

あはああああ

▲あつてあ

まらりあ

あああああ

あああああ

▲あひあ

あああああ

あぐりの海よあの子
つきて送るうそらん

▲きりました

地ろくへおし守地蔵魚

うれすうが#あつまるうそらん

二うららあぐりのあぐり

▲あまねのい

聖良たその麻うげ

女房さぞらるあぐりの

▲うらそらん

たのきうらうとららん

つものあぐり茶せん

あまやううお尻がし

▲せひとよ

い所付て身る伊勢曆

移る案どやアあ

あつこれ中お子酒

▲あつとつあ

寐耳へ目がまのあおそ

あぐりがよひよくらん

▲あつてさく

徳ウケのくトビ 臭ウラのくウラ

あまウラりウラりウラりウラりウラりウラ

あまウラりウラりウラりウラりウラりウラ

▲あまウラりウラりウラりウラりウラ

持モタきモタわモタもモタ根カキ持モツもモツ根カキ

臭ウラ編ヘンくウラくウラくウラくウラくウラくウラ

弘コウ法ホウ様ヤウもモでデけケ筆フデけケ

▲へヘのノいイのノいイ

棟ムネとトそソくクくク物モノ乃ナがガ

世ヨ波ハとトそソめメ程ホトとトそソ網アミ

▲こコのノいイのノいイ

あアんンがガとトくクくクもモ伊イ比ヒきキ山ヤマ

わワんンのノ梨リ乃ナゆユもモもモ吟イン

▲とトのノいイのノいイ

てテのノあアりリなナにニ下ゲ結ケ豆マメ腐クサ

怒イカいイたタらラふフのノ焼ユキがガ茶チをヲ

▲とトれレまマすス

合イをヲらラるルにニ比ヒれレ

あアらラまマすスのノ腹ハラ

▲らーらゆり

小くぐりあうササ様り

口比イひウ汁ヒ

▲わらわら

わらわらウ連ヒ

あひウ菌ヒ

▲あひ

あひウん

らウ井ヒ

▲あひ

1500

落
丁

入
子
す
口